

1 はじめに

本校は、小規模校のよさを活かした異学年交流活動の可能性の探究と自治的活動の活性化に向けて取り組んでいる。少人数だからこそ成し得る「一人一人が Only One の存在として輝く」という本校の教育目標の具現化を目指している。

2 資料

(1) 時間を守ろうキャンペーン

時間を守ろうキャンペーンは生徒会が主体となって行った取組である。

「本校生徒がよりよい生活を送るためにどうしたらよいか」というテーマで生徒たちが考えた。また、その取組として「移動教室が続く場合は複数の授業の用意をする」「ポスターの掲示」により啓発活動を行った。生徒主体の話合いでは、活発な意見交換が行われた。

曜日	月	火	水	木	金	
時間	平常タイム					
朝	朝の会					
1	8:35 1 9:25	学活	英語科	国語科	数学科	数学科
2	9:35 1 10:25	国語科	社会科	数学科	道徳科	体育科
3	10:35 1 11:25	英語科	理科	家庭科	理科	英語科
4	11:35 1 12:25	社会科	国語科	社会科	英語科	美術科
昼	給食					
5	13:25 1 14:15	体育科	理科	体育科	音楽科	美術科
6	14:25 1 15:15	家庭科	技術科	理科	国語科	総合
帰りの会	15:25 1 16:15					16:25 1 17:15

(2) 体育祭

今年度は、初めて体育祭を体育館で行った。このことにより、毎年心配される天候に左右されることがなくなったことがメリットといえる。一方、初の体育館開催ということで、広さが決まっているために行える競技に制限があった。しかし、実行委員を中心に話し合いを行い、全員が楽しめる趣向を凝らした競技になった。さらに、PTA 参加項目では、家族の誰でも参加できるようにし、会場全体で楽しさを共有できた。



(3) 桐葉祭

右は全校合唱の様子である。2年間自粛した合唱を再開できたことは嬉しいことだった。全校生徒にとって初めての合唱を全員合唱という形で行ったことで、心を一つにすることができた。また、学級の発表や平沢スター誕生などの企画に、生徒一人一人が二役三役を担って桐葉祭を成功させることができた。



3 成果と課題

(1) 成果

- ・少人数を生かした行事の取組ができた。
- ・生徒一人一人が役割をもつことができた。
- ・生徒が主体的に活動することで生徒の自己有用感が高まった。

(2) 課題

- ・少人数により、例年できていたことができない場合がある。
- ・行事等において生徒一人一人の負担が大きくなっている。

